突然襲ってくる自然災害の前に

命を守るため、今できること

問 危機管理室
☎ 63 - 7271

大雨が続くこれからの季節はご注意を！

土砂災害が全国で多発しています。

こんな前ぶれに気づいたらすぐ避難！

がけ崩れ　急傾斜地崩落危険箇所

▼がけにひび割れができる
▼小石がパラパラと落ちてくる
▼がけから水が湧き出る
▼湧き水が止まる
▼湧き水が濁る
▼地鳴りがする

土石流　土石流危険渓流

▼山鳴りがする
▼急に川の水が濁り、流木が混ざり始める
▼腐った土の匂いがする
▼雨が降り続いているのに川の水位が下がる
▼立木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえる

地すべり　地すべり危険箇所

▼地面がひび割れたり陥没したりする
▼がけや斜面から水が噴き出す
▼井戸や沢の水が濁る
▼地鳴り・山鳴りがする
▼樹木が傾く
▼亀裂や段差が発生する

市内にも土砂災害警戒区域に指定されている地域があります。市内の避難場所などは昨年配布した「名張市防災マップ」などをご覧ください。市役所2階危機管理室でもお配りしています。

市民6600人が登録！

防災ほっとメールにご登録ください。

市では、災害発生時の避難勧告や避難指示、避難所開設情報のほか、防犯情報など、市民の皆さんの生命や身体に関わる緊急情報の伝達手段として、「防災ほっとメール」を運用しています。

■防災情報を配信

地震や風水害などにより、市が災害対策本部を設置した際、避難情報や災害情報を携帯電話などに電子メールでお知らせします。

■防災情報、救急情報を掲載

防災ほっとメールのホームページでは、避難場所が検索できるほか、被害情報、二次救急実施病院などの情報が閲覧できます。

登録方法

●携帯電話やパソコンで http://www.anshin-bousai.net/nabari/に接続するか、右のＱＲコードを読み込んでも登録できます。

今できる備えを！

最低7日間の水・食糧の備蓄を！

大規模災害時に救護活動が本格化するまで日数を要することが予想されるので、7日間程度の備蓄をしてください。

■備蓄品を用意するコツ

水や食料を備えるときは、水や火を使わないで食べられるような缶詰やレトルト食品などを購入しましょう。

水や食糧などは賞味期限を意識して、定期的に点検、入れ替えをしましょう。

一部避難所が使用できません

吊天井落下防止工事のため工事期間中は避難所として利用することができません。

▼名張中学校

工事期間　7月20日～8月31日

※災害発生時には、別の避難場所を開設します。地域の皆さんには「防災ほっとメール」、「ＦＭなばり」、「広報車によるアナウンス」などでお知らせします。

熊本県御船（みふね）町へ派遣された市職員が見た被災地の現状

被災地へ風化させることなく支援を

課税室（固定資産担当）
山﨑 雅樹

熊本地震の被災地である御船町に6月1日から30日までの間、名張市から10人の職員が1週間ごとに2人ずつ派遣されることになり、私はその1組目として現地へ行ってきました。

地震発生から１カ月半。現地では水道が復旧し、商業施設の復旧も進み、支援物資の配給も縮小されています。

しかし、現在も避難生活をする人が多数おり、ブルーシートがかけられた屋根があちこちに見受けられ、半壊・全壊の家々がいくつもあります。一見、町は落ち着きを取り戻しているように見えても、復興への問題は山積している状況です。

そんな中私たち派遣職員は、り災証明を発行するために家屋の被害状況を調べる家屋被害認定調査を行いました。

今回被災地に行って感じたのは、全国が被災地の復興に向けて尽力しているということです。現地ではさまざまな企業・個人からの支援物資や、ボランティアの皆さんが集まり、御船町の職員もずっと休みなく頑張っています。そして、被災者の皆さんも復興に向けて歩き始めています。

一日でも早い復興のため、皆が「被災地のために何か力になりたい」という今の気持ちを風化させずに、自分にできる支援を続けていくことが大切だと感じました。

古い家屋を中心に多くの被害が出ました。

市総合防災訓練は11月19日㈯（予定）　昨年は約43,000人が参加、市民総ぐるみの防災訓練です。ぜひ、ご参加ください。